

# 3年1組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 小林 優毅

授業① 3年1組教室

## 1 単元名 二塚からしな有名化プロジェクト

## 2 小単元のねらい

二塚からし菜の良さやおいしい食べ方を調べる活動を通して、二塚からしなに携わる人々の願いや思いに気付くとともに、多様な方法で情報を収集し、整理・分析、まとめ・表現することを通して、たくさんの人に二塚からしなの事を伝えることができるようにする。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共感的に聞いたり、疑問をも って聞いたりすることを通し て、二塚からしなに携わる 人々の思いや現状を理解して いる。(聞く力) ③自分の考えに、理由をつけて 話すことや、資料等で補足し、 相手意識をもって発信してい る。(伝える力)	②多様な方法で情報を収集し、 目的に応じた視点で情報の整 理・分析をしている。(情報を 収集・整理・分析する力)	①二塚からしなの良さに気付 き、進んでおいしい食べ方を 調べようとしてる。(好奇心) ②二塚からしなに携わる人々の 思いや、願いを知ること で、自分たちも役に立ちたい という思いをもち行動してい る。(挑戦心)

## 4 指導にあたって

### (1) 教材観

今年度の3年生における総合的な学習の時間は、加賀野菜を題材とし進めていく。加賀野菜は、古くから市民に親しまれ、主として金沢で栽培される野菜の中から、金沢市農産物ブランド協会が認定したものである。身近な小売店で手に入る野菜もあることや、自家栽培を行っている家庭もあり、普段の食卓に上ることもある身近な存在の野菜である。一方で、古い時代から伝統野菜として多くの人に関わり守り受け継いできたという側面もあり、歴史的な奥深さも併せもっている野菜である。現在、加賀野菜には15品目が認定されており、これらは昭和20年以前から栽培されているものである。一度は口にしたことのある野菜が、加賀野菜として特別な名称があることや、その歴史の深さがあることに、驚きをもつとともに、興味をもって15品目について調べていくことが期待される。加賀野菜15品目については、「どんな野菜なのか?」「どんな味がするのか?」「どこで作っているのか?」という疑問をもちやすく、知りたい、調べたいという好奇心へとつながっていくものと考えられる。また、あまり知られていない品目があることに対しても疑問を抱くだろう。加賀野菜のことを調べて「分かった」だけでは終わらず、「もっとたくさんの人に知って欲しい」「たくさんの人に食べてもらいたい」という思い(挑戦心・向上心)につなげていくことができる題材であると考えられる。

## (2) 子ども観

加賀野菜について初めて知った。あるいは、加賀野菜について知っているが、詳しいことはわからない子どもは、3年1組34名中、20名と大半を占めている。その一方で、15品目の内1品目でも食べたことのある子どもは、ほぼ全員であった。このことから、加賀野菜は身近にある野菜でありながら、詳しいことについては、知らない子どもがほとんどであるといえる。

一学期の学習では、加賀野菜の中でも、特に知られていないと思われる二塚からしなについて、調べたり、実際に育てたりする活動を行った。その中で、「二塚からしなをもっと有名にしたい」「二塚からしなのおいしい食べ方をたくさんの人に広めたい」など、二塚からしなを多くの人に知ってもらいたいという思いが高まってきている。

挑戦心については、二塚からしなを有名にするために自分たちができることは、何でもするという思いを強く持っている一方で、二塚からしなの栽培や販売に携わる人の思いや願いと結び付けて、広める方法を考えていくという意識は弱い状態である。

情報を収集・整理・分析する力に関しては、知らないことを分かるようになりたいという思いが強く、これまでの経験から本やインターネット、身近な人に聞くことを通して、多くの情報を収集することができる。一方で、調べた情報を整理・分析することに関しては、十分に力があるとはいえない。話合いの場でも調べた事実を羅列であげるにとどまり、項目ごとに整理することや、調べて分かった事実から考えをもつことは、教師側からの働きかけがないと難しい。

伝える力については、自分の調べた情報や考えを積極的に伝えることができる子どもが多い。その一方で、相手に理解してもらいたいという意識は弱く、他者意識をもって資料を活用して伝えることや、考えの理由をわかりやすく説明する力は乏しい。

## (3) 指導観

二塚からしなを食べたことがなく、どんな料理や食べ方があるのかもわからない子どもに対して、おいしい食べ方を調べる活動から学習を進め、共通のレシピを家庭でも食べることを通して、学びの土台を揃えていく。身近な人と関わって、料理を考えたり、レシピを調べたりする活動を通して、おいしい二塚からしなの食べ方を発見することが、サイクルのスタートとなる。そこでは、こんなおいしい食べ方を、たくさんの人に伝えたいという子どもの思いを引き出し、次の学習につながるようにしていきたい。また、二塚からしなに携わる人々の話を聞いて、思いを知ることで、二塚からしなの良さをたくさんの人に知ってもらうために役に立つことをしていきたいという思いをもてるようにしたい。(挑戦心)

次の活動では、自分たちの考えた二塚からしなの食べ方をたくさんの人に知ってもらい、食べてもらう方法について考えていく。子どもからは、自由で様々な方法が挙げられることが予想される。たくさん挙げられた方法の中から一つに決めていく話合いでは、具体的な方法や、問題となることを考えるようにしていきたい。二塚からしなのおいしい食べ方をたくさんの人に伝えたいという目的のために、自分たちの考えた方法は、実現可能かという視点を通して話合いをすることで、最適なものに絞っていく力をつけたい。(情報を収集・整理・分析する力)

お弁当屋さん、伝えることを話し合う場面では、相手の立場に立って、どんな情報を知ったら、お弁当に入れようという気持ちになるのかを考えていきたい。自分たちの思いや持っている情報を一方的に伝えるのではなく、「こんなことを伝えれば、相手はこんな思いになるのではないか」といった予想を考え、相手意識を持って伝える力をつけていきたい。(伝える力)

5 単元計画（総時数 28 時間）

時	学習活動	★9つの資質能力の育成に関わる手立て	評価
1～6	<p>○二塚からしなの良さを生かしたおいしい食べ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二塚からしなの良いところってピリッとした辛さだな。</li> <li>・辛さを生かした食べ方にはどんなものがあるかな。</li> <li>・インターネットで調べたら出てくるかな。</li> <li>・家でこんな食べ方を工夫したよ。</li> <li>・おいしい食べ方がみつかったから広めたいな。</li> </ul>	<p>★二塚からしなのも良さを生かした食べ方を考えるために、二塚からしなの良さを生かすという視点を通して話をさせる。</p> <p>（情報を収集・整理・分析する力）</p>	思②
7～10	<p>○自分たちの見つけた二塚からしなのおいしい食べ方を矢野さんに報告しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが見つけた二塚からしなの食べ方や、食べてみた感想を矢野さんに伝えたいな。</li> <li>・矢野さんが、二塚からしなのをもっと有名にして欲しいと欲しかったから、自分たちの見つけた食べ方をたくさんの人に広めていきたいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どうやったら、二塚からしなのおいしさをたくさんの人に伝えられるかな？</p> </div>	<p>★矢野さんの役に立てるように、たくさんの人に伝えていかなければならないという思いがもてるようにするために、矢野さんの思いや、願いを直接聞く機会を設ける。（挑戦心）</p> <p>★二塚からしなに携わる矢野さんの思いを引き出すために、感じたことを伝えたり、疑問をもって聞いたりする。（聞く力）</p>	態②  知①
11～14	<p>○自分たちの考えた二塚からしなの食べ方を広める方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの人に食べてもらい、広める方法って何かな。</li> <li>・レストランで料理を出してもらえないかな。</li> <li>・スーパーマーケットでお惣菜として置いてもらえないかな。</li> <li>・お弁当屋さんの弁当に入れてもらえないかな。</li> <li>・実現することが可能なのはどれかな。</li> <li>・レストランは断られたよ、難しそうだな。</li> <li>・スーパーマーケットは仕入れもあって難しい。</li> <li>・話を聞いてもらえるお弁当屋さんがみつかったよ。</li> <li>・お弁当屋さんに手紙を書いて、自分たちの思い</li> </ul>	<p>★具体的な方法や、問題となることを考え、実現可能かという視点を通して話をすることで、広めていく方法をしぼっていけるようにする。</p> <p>（情報を収集・整理・分析する力）</p>	思②

	を伝えたいな。		
15～18 (本時 17時)	<p>○お弁当屋さんにどんなことを伝えたら説得できるのか考えよう。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本時</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの見つけたおいしい食べ方を伝えたらいいよ。</li> <li>・食べ方だけではなく、二塚からしなの栄養についても伝えるといいね。</li> <li>・考えたキャラクターも何かに使えないかな。</li> <li>・お弁当屋さんに伝える内容を矢野さんに聞いてもらい、アドバイスをもらいたいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>二塚からしなのおいさを、たくさんの人に伝えるために、お弁当さんに協力してもらえらる事になったよ。これから、お弁当さんを説得できるように準備をがんばっていきましょう！</p> </div>	<p>★相手意識をもって話すことができるようにするために、自分の考えに、理由をつけて話すことや、資料等で補足することの分かりやすさを考える。</p> <p style="text-align: right;">(伝える力)</p> <p>★目的に応じた視点で情報を整理分析するために、お弁当さんが納得するかどうかという視点で話し合いをする。</p> <p style="text-align: right;">(情報を収集・整理・分析する力)</p>	<p>知②</p> <p>思②</p>
21～25	<p>○お弁当さんにプレゼンをする準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな役割が必要か確かめよう。</li> <li>・写真や、これまでの資料があるとわかりやすいね。</li> <li>・台本があった方が練習できるね。</li> <li>・リハーサルをして、足りないところをアドバイスし合いたいな。</li> </ul>	<p>★相手意識をもって話すことができるようにするために、自分の考えに、理由をつけて話すことや、資料等で補足することの分かりやすさを考える。</p> <p style="text-align: right;">(伝える力)</p>	<p>知②</p>
26～27	<p>○お弁当さんにプレゼンをして、自分たちの考えたメニューを採用してもらおう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分たちの考えた食べ方がお弁当になってたくさんの人に食べてもらえることになったよ。</p> </div>	<p>★より多くの人に二塚からしなを広めていくために、二塚からしなに携わる人々の思いや、願いを伝える。</p> <p style="text-align: right;">(挑戦心)</p>	<p>態①</p>
28	<p>○これまでの学習をふり返り、三学期の計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当をたくさんの人に買ってもらうためにできる事は何かな。</li> </ul>		

6 本時の学習 (28 時間中 17 時)

(1) 本時のねらい

お弁当屋さんがどんな思いをもっているのかという視点で、情報を整理・分析し、お弁当屋さん  
に提案する企画を考えることができる。 【思考・判断・表現②】

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と子どもの思考の流れ ○教師の発問 ・ 予想される子どもの思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
10	<p><b>1. 学習の見通しをもつ</b></p> <p>○お弁当屋さんは、どんな思いをもっている人だったかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当屋さんも、二塚からしなをたくさんの人に広めたいと思っているよ。</li> <li>・おいしく食べてもらうことで、広めていきたいと思っているよ。</li> </ul> <p>○お弁当屋さんにはどんなことを伝えたら、コラボレーションしたいと思ってもらえるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちも、からしなを広めたいという思いは同じということをと伝えたらいいよ。</li> <li>・これまでにやってきたことを伝えて、そこまで言うなら、ぜひコラボレーションしましょうという思いにさせたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールに向け、自己調整的な学びを促すために、探究サイクルの中で本時はどこに位置付くのかを確認する。</li> <li>★お弁当屋さんからのメッセージを紹介することで、コラボレーションしたいという思いをもたせる。 (挑戦心)</li> <li>★提案する取組がお弁当屋さんの思いに合っているのか考えることで、企画を考える際の基準がもてるようにする。 (情報を収集・整理・分析する力)</li> </ul>
5	<p><b>2. 課題をたしかめる</b></p> <p>&lt;お弁当屋さんとはどんなコラボレーションができるか&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自分の考えに、理由をつけて話すことや、資料等で補足することで、相手意識をもって伝えることができるようにする。 (伝える力)</li> </ul>
20	<p><b>3. 全体で考えを話し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが考えた食べ方をお弁当にしてもらいたいな。</li> <li>・辛いのが苦手な子どもが食べてもおいしい食べ方を一緒に考えたいな。</li> <li>・屋台を出したり、二塚からしな祭りをしたいな。</li> <li>・からしなのゲームを一緒に作りたくないな。でも、それは、お弁当屋さんの思いに合わないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の学びにつながるように、学習をふり返り、自身の変容を評価する。</li> </ul>
5	<p><b>4. 学習をまとめ、ふり返る</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>コラボレーションのアイデアがたくさん出たよ。お弁当屋さんが一緒にやりたいですと言ってくれたらいいな。</p> </div>	<p>◎お弁当屋さんがどんな思いをもっているのかという視点で、情報を整理・分析し、お弁当屋さん に提案する企画を考えている。 <span style="float: right;">【思考・判断・表現①】 (発言・エディキュープ)</span></p>
5	<p><b>5. 次時の見通しを持つ</b></p> <p>○次の時間は何をしたらいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラボレーションのアイデアは出たから、つたえるための準備をしたいな。</li> </ul>	